

## 第1回 第2波対策検討ワーキング 議事要旨

日時：令和2年6月15日（月曜日）11時00分～12時20分

出席者：（専門家）猪口委員、神谷委員、具委員、齋藤委員、関谷委員  
（東京都）小池都知事、梶原副知事、矢内福祉保健局技監、  
岩瀬福祉保健局理事、野間福祉保健局理事、矢沢医療政策部長、  
成田保健政策部長、吉田感染症危機管理担当部長、  
杉下新型コロナウイルス感染症対策担当部長

### 1 新型コロナウイルス感染症第2波に備えた検査・医療体制の構築について

（医療体制）

- ・院内感染もそうだが、高齢施設などの施設内感染対策も重要。感染者が発生した場合に備え、どの機関が支援に入るかなどあらかじめ計画を作っておくべき
- ・院内感染発生時に現場で誰がリーダーシップをとるのが重要
- ・より大きな波が来た時に備え、周辺県との医療提供体制のシェアが必要

（検査体制）

- ・疫学調査において早く検査結果がほしい検体と、ある程度待てる検体がある。急ぎの検体を優先して結果を出せるような仕組みがあると有効
- ・PCR検査をすぐ行えるよう24時間体制で検査を行う仕組みが必要

（組織対応力）

- ・組織としては東京都健康安全研究センターの機能強化が一番重要。データが揃わないとリスクコミュニケーションが取れない。ターゲットを絞り込んできちんと発信すべき
- ・東京都健康安全研究センターで専門家を育てるという観点が必要

### 2 その他

（都で検討している新たなモニタリングについて参考意見を聴取）

- ・地域別など、どこで患者が多く発生しているかわかるようにすべき
- ・救急の状況も判断する材料にするのはいいかもかもしれない
- ・患者数については、発症日別と確定日別の両方があると良い
- ・発症日と陽性確定日の時間差が検査体制の確保状況を示すはず。この差が短いほど、早く患者を捉えられている